



発行日 = 2006年2月25日 発行人 = 面出 薫 編集 = 田沼 彩子・永津 努・窪田 照彦
照明探偵団・事務局 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-28-10 ライティングプランナーズ アソシエーツ内 (田沼 彩子)
TEL : 03-5469-1022 FAX : 03-5469-1023 e-mail : office@shomei-tanteidan.org http://www.shomei-tanteidan.org

照明探偵団通信

vol.24 Shomei Tanteidan Tsu-shin

国内調査レポート

「PROMENADE CITY IN KOBE」
～兵庫県神戸～

照明探偵団倶楽部活動 1

ライトアップニンジャ

@Duxton Plain Park, Singapore
(11/19-20)

照明探偵団倶楽部活動 2

100万人のキャンドルナイト

@Omotesando 開催 (12/22)

照明探偵団倶楽部活動 3

2005年

クリスマスイルミネーション調査報告

照明探偵団倶楽部活動 4

第27回街歩き 秋葉原

変容を遂げる電気街とその光 (11/9)

照明探偵団倶楽部活動 5

第30回研究会サロン (11/17)



100万人のキャンドルナイト@Omotesando 2005 冬至

PROMENADE CITY IN KOBE

2005.10.19-21 兵庫県神戸

永津 努

大阪に近接し、六甲山と瀬戸内海に囲まれ、約 544 万人が住む港町神戸。

神戸には異人館、旧居留地、中華街、メリケンパークなどがあり日本と西洋の文化が、混在している街である。同じ港町横浜と比較調査をするべく、この地におりたつた。



ポートアイランドからの神戸市街

阪神淡路大震災から早 10 年が経った。災害後の復興も早く、街には亡くなられた方々の慰霊碑や、災害時の状況をそのまま残したメモリアルパークが建てられおり、記憶を形に残している。

■港町神戸の夜景を眺める

埋立地ポートアイランドから神戸の夜景を眺める。港側には朱色が輝く神戸ポートタワーと白色の神戸海洋博物館が日の丸をイメージさせ、ブルーの点光源が目立つオリエンタルホテルがあるメリケンパークがある。カラフルな光を発する観覧車と電球色に包まれたショッピングモールが佇むハーバーランドの二つが神戸の夜景を賑やかにしてくれる。そこから一本通りを内側に入っていくと旧居留地や三宮センター街、山側には異人館や住宅街がある。

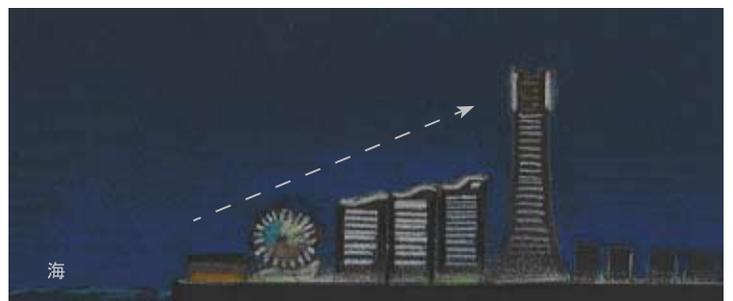
メリケンパークは主に水銀灯のポール灯（高さ 6 m、ピッチ 25 m、40 m）で占められている。パーク内では広場の平均照度が 1.5lx、遊歩道の平均照度が 7lx あり、横浜と比べてもさほど照度は変わらないが、パーク内を歩いてみると鉛直面の輝度が低いためとても暗く寂しく感じた。

横浜の夜景と比較をすると、横浜は海側から赤レンガ倉庫、コンチネンタルホテル、観覧車（コスモワールド）、クイーンズスクエア、ランドマークタワーと奥に行くほど建物が高くなり、そこに光の層が生まれ、街の空間の奥行きが感じられる構成になっている。その比して神戸

は山側に光が感じられず、港側に横一列に並んでいる。そのため港側のエレベーションとしての見えやすさはあるが、町全体としては空間の奥行きがあまり感じられない。一方山側から見てみると港側に向かって光のグラデーションが強くなっているため街の構成を把握することができた。



神戸断面：海側に光が溜まっている。



横浜断面：海側からランドマークタワーまで光が並んでいる。

■屋内に無数に広がるショッピングストリート

三宮駅すぐにある約 500 mある KOBE 三宮センター街（アーケード）と、縦横無尽に広がる地下街の SANCHIKA が神戸の人々のショッピングストリートとなっている。

三宮センター街は道幅 8 m と広く、昼間はアーケードが太陽光を柔らかく透過している。夜になるとアーケード内はスポットライトのような器具で天井面をアップライトし店舗前にはダウンライトが埋込で設置されている。平均照度は 230lx。アーケード内途中には2階の連絡通路が三箇所あり、その天井には意匠的な光天井になっていて通りのアクセントになっている。2階連絡通路と一階通路の両方からの視点を楽しめる空間だ。

センター街から地下に降りていくと、そこには木の根のように地下街が広がっていた。道幅は 6 m、天高が 3.5 m ほどと天井は低く感じる通りだ。天井と通路両側には意匠的な器具が 5 m 間隔に設置されている。

遊歩道がとても多く充実していて、太陽光を遠ざけているようにも思えたが、神戸の街は歩行者側からの視点で街が形成されているように思えた。



若者が集まるKOBESANJŪセンター街



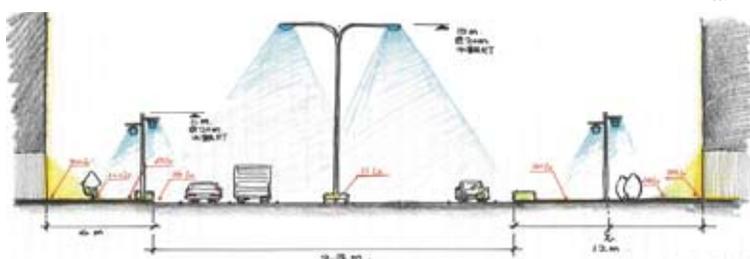
アーケード内の2階連絡通路



三宮地下に根のように広がる神戸 SANCHIKA(地下街)



神戸メインロードのフラワーロード



フラワーロードショッピングビル前断面図

■歩道が広がるフラワーロード

フラワーロードは、阪神タイガースの優勝パレードなどにも使われる神戸のメインロードだ。フラワーロードは港側に向かってショッピングビル、市役所、公園と大きく三つをまたがって通る。車道 23 m（中央分離帯含む）、歩道 3.5-16 m がある。車道照明と歩道照明が別れており、歩道照明は意匠的なポール灯（水銀灯）で道のアクセントになっている。道沿いに彫刻作品が置いてあるのも歩道に力を入れているのが良くわかる。

昼間とても開放的な歩道が夜になると一転、とても暗く寂しくなってしまう。ショッピングビル周辺は店舗からの漏れ光と鉛直面の輝度が感じられるが、市役所周辺や公園にいたっては鉛直面の輝度を感じられない。公園内はこの都心の真ん中でよくこれだけの広い公園（約 23 km²）が確保できていると思うほどののだが、ただ暗い闇のかたまりとなっている。（平均照度は 1lx）

昼間気持ちの良い場所だからこそ、夜になった時の寂しさが残念で仕方がない。

（永津 努）

ライトアップニンジャ @ Duxton Plain Park, Singapore

2005.11.19 - 20

■ニンジャ現る！

もともと照明探偵団では、光を“さっと当てさっと逃げる”一夜限りのイベントを、「ライトアップゲリラ」と呼んでいました。しかし、このご時世「ゲリラ」という言葉は、政情が不安定な近隣国を抱える東南アジア地域では、あまり響きのよいものではないという声もあり、「ライトアップゲリラ」は名称変更することになりました。

新名称を東京とシンガポール双方で考えている時、シンガポールの探偵団員ヤーリさんから「ライトアップローニン」という提案が出ました。クロサワ映画ファンのヤーリさんは、受験に失敗して更に勉強中、という日本現代社会における「浪人」の定義はもちろん知りません。「人生の真意を探求する彷徨者たるローニンは、照明探偵団の哲学にふさわしいのでは？」とまじめに考えてくれたのです。

結局、東京の探偵団に在籍中のアメリカ人レイチェルさんが提案してくれた「ライトアップニンジャ」が採用されました。「ニンジャ」といえば世界中どこでも通じる日本語ですし、イメージが探偵団にぴったりです。

■デザインフェスティバル

シンガポールで行われるはじめてのデザインフェスティバルに照明探偵団の参加要請があってから、どこでどんなイベントをやるか・といろいろなアイデアがディスカッションされました。以前から目をつけていたニン

照明探偵団シンガポール支部では、昨年11月に開催されたシンガポールデザインフェスティバルの参加イベントとして、「ライトアップニンジャ」を主宰しました。

昨年8月にバリ島でのイベント（前号参照）企画で本格的な活動をキックオフし、このニンジャワークショップはそれに引き続く第2弾です。

LIGHTING WORKSHOP

Open to ALL
On the 19th & 20th of November 2005

organized by

照明探偵団 SINGAPORE DESIGN FESTIVAL
Lighting the Night



REGISTER TODAY!

at
LIGHTING PLANNERS ASSOCIATES
68 Neil Road Singapore 088836
Tel: 6734 3086
Enquiries may also be sent via email to -
singapore@lighting.co.jp
Registrations till 15th November 2005

Time: As Dusk sets in! Venue: Duxton Plain Park, Singapore
Workshop Head: Mr. Kaoru Mende; Principal, Lighting Planners Associates, Japan & Singapore.

More information about LIGHT UP NINJAI and the LIGHTING DETECTIVES
can be found at www.shomei-tanteidan.org

LIGHT UP NINJAI is supported by



告知用のパンフレット



参加者への説明の様子



ワークショップの様子

ジャイベントにふさわしいロケーション、例えばかの有名なコロニアルホテル・ラッフルズホテル、世界3大がっかりモニュメントに堂々仲間入りのマーライオン、世界最大規模を誇る貿易港のコンテナやクレーンの群れ・・・などなど、何かやったらおもしろそうな候補地が次々に挙げられます。壮大なアイデアが行き交いながらも最終的に行き着いたのは、ニンジャの原点、街角に潜む通常は特に目にとまらないような風景を、少しの光によって照らしてあげよう、ということでした。そして、もうひとつ大切なこと、誰もが参加できるワークショップ形式のイベントにしようということでした。

シンガポール探偵団の拠点となっているのは、20世紀前半に建てられはじめたショップハウスと呼ばれる低層の建築が軒を連ねるチャイナタウンの一角で、その装飾的なファサード群とヒューマンスケールな街路が魅力的な雰囲気を出しています。ローカル色たっぷりの庶民的な商店や食堂に混じっておしゃれなカフェやレストランが点在し、デザイナーや建築家の事務所も多く、独特のコミュニティが形成されています。私たちがワークショップの場所に選んだのは、そのコミュニティに沿うように800メートルくらいに細く延びる散歩道のようなこぢんまりした公園、ダクストンプレインパークでした。

■本番

シンガポール探偵団員の板倉さん、菅又さん、ヤーリさん、ガウラフさんにとっても初めてのライトアップニンジャ体験とあって、ワークショップ当日の11月19、20日までドキドキの連続です。大きなトロピカルな植栽が美しい公園の4か所をセレクトして、4社の協賛照明メーカーと共に光の絵葉書をつくるための準備に奔走します。

シンガポールでは、ニンジャ活動といえども、公共の場に勝手に出没するようなことは好まれないので、国立公園庁、陸路交通庁などのお役所にもきちんと事前に届けを出します。あとの心配は天候です。熱帯雨林のシンガポールはこの時期雨が多く、たたきつけるような豪雨が毎日降ることもあります。こればかりは晴天を祈るしかありませんが、ワークショップ前日も雨で私たちの不安は募る一方でした。

そして当日を迎えました。朝から曇り空です。

公募で集まった定員25名の参加者の多くはデザイン事務所や設計事務所に勤務する若い人たちでしたが、14歳の中学生、投資家、ジャーナリストなどの参加もあり、面出団長もこのワークショップのためにシンガポール入りして、賑やかな幕開けとなりました。

まずは探偵団事務所で団結式です。これまでの活動紹介やガイダンス、協賛各照明メーカーの紹介後にくじ引きで4チームに分かれ、4名の団員がそれぞれのチームリーダーとなり、ワークショップ開始！ 家庭用の照明器具以外の照明器具に触れるのははじめてという参加者も多く、光源の種類や器具の性能などについて、早速照明メーカーの皆さんや各チームリーダーを質問攻めにします。皆で事務所に山と積まれた器具を運びながら現場での仕込みが始まります。

賑やかな大通りに面した公園の入り口はガウラフさんチーム担当で、マーティンのプロジェクション器具を使って通り沿いのビルの壁面にニンジャロゴを投影と、樹木のライトアップを試みます。

公園を入ると細長い散歩道が続きます。ここは板倉さんチームが、フロスの照明器具を使ってベンチや白い花が美しいフランジパニの木をオブジェに、アウトドアラウンジの風景を演出します。

更に進むと、高架に車道が横切るために4メートルくらいのトンネルがあります。ここは菅又さんチームがカラーキネティックスの協力を得て、素っ気無い空間をカラフルで楽しいエリアに変身させます。そして、公園のもう一方の出入り口には、樹齢を重ねたご神木バンヤンツリーが鎮座しており、ヤーリさんチームがエルコの器具を使ってきれいに照らしてあげます。

そして、白っぽい光でぼんやり公園を照らしているポール灯は、せっかくの情緒ある公園のムードをぶち壊していると、ダンポールでシェードをつくり蓋ってみることにしました。

この日は本番前夜のリハーサルなので、全ての器具の点灯はしませんが、電源機を発動させてケーブルを引いたりする、縁の下の力持ちである電気工事屋さんたちも、こういったイベントに慣れていないために準備は予想以上に難航します。汗だくになりながら土曜の晩が過ぎました。



大きな樹木が照らし出される



準備万端の面出団長と団員たち



仮設マティーニバー

ワークショップ2日目、参加者は3時に集合して、ポール灯のシェードづくりと現場調整に入ります。その頃には参加者も皆打ち解けて積極的な提案やアイデアがどんどん出てきて、頼もしい限りです。それぞれの位置に器具がスタンバイされ、ポール灯も手作りシェードを被り、キャンドルにも光が灯りました。7時になり、いよいよ点灯式です。

公園の入り口に全員集合して、面出団長の宣言と共にニンジャ君のプロジェクションがオンになります。街を歩き交う人たちも、何が起きているのかと集まってきました。参加者がそれぞれのチームのライティングコンセプトを説明しながら皆で公園を回遊します。とっておきは、きれいな青いボトルが有名なジンのブランド・ボンベイサファイアが、この一晚限りのライトアップのために設置してくれた移動式マティーニカウンター。公園がラウンジパーに変身です。2日の長い、熱い(暑い)ワークショップに乾杯！ シンガポールのみなさん、おつかれさまでした。今にも雨が降り出しそうな雲行きだったのに、2日間持ちこたえてくれたお天気にも多謝！

(葛西 玲子)